

予報期間 8月20日から8月26日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 期間を通して太平洋高気圧が日本の南に張り出す。
- 22日から24日にかけて、低気圧が沿海州付近から千島の東に進む。
- 24日から25日にかけて、高気圧がオホーツク海を東に移動する。
- 25日から26日にかけて、低気圧が沿海州から北日本付近に進む。

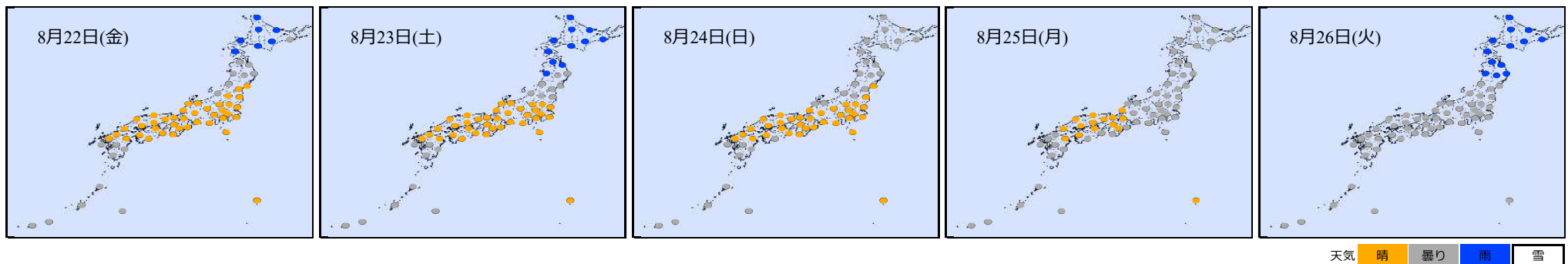
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 23日頃は、北日本では低気圧の影響で大雨となり、低気圧の発達程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 東日本から西日本にかけては気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

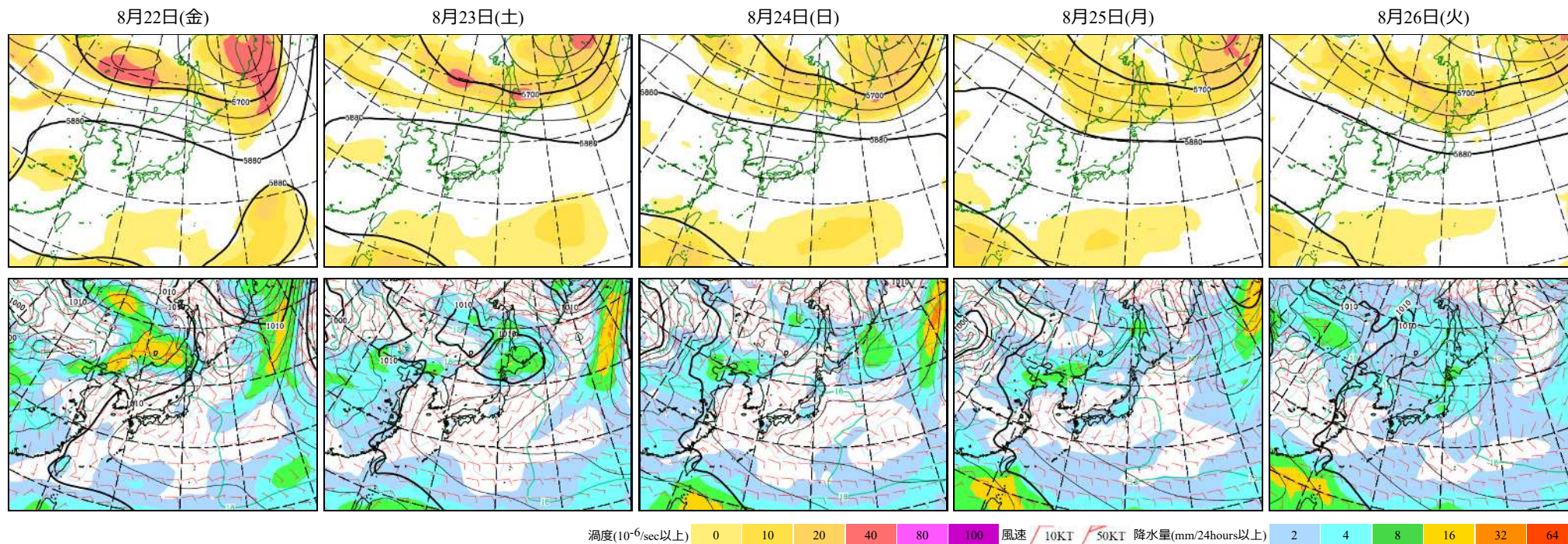
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

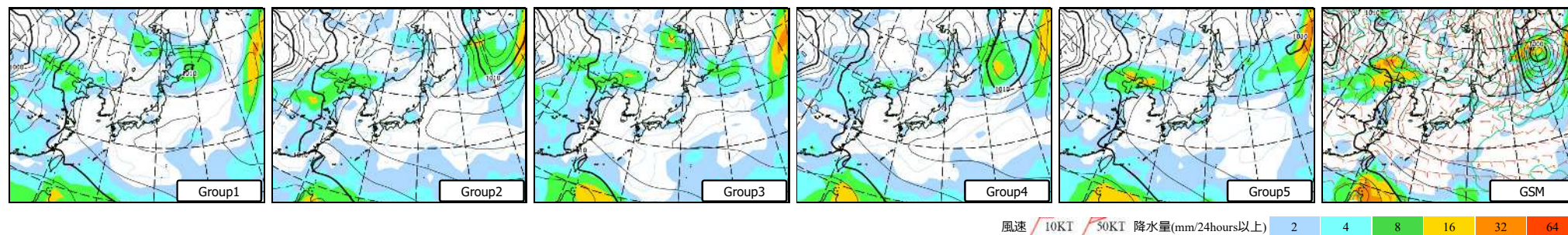


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本と西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月24日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、22日に千島近海の高気圧が東に寄った。22日から23日にかけて、沿海州付近からオホーツク海に進む低気圧が強くなった。24日から25日にかけてオホーツク海の高気圧が強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、22日から23日にかけて北海道で大きくなった。
- スプレッドは小さく、特定高度線のばらつきも小さいが、期間の終わりに北日本付近を通過する低気圧の位置にはモデル間のバラつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。